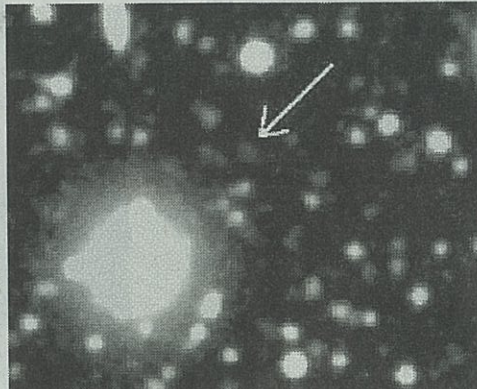


128億光年かなたの銀河



国立天文台などがすばる望遠鏡でとらえた最も遠方の銀河「IOK-1」(矢印で示した天体) 国立天文台提供

国立天文台など 最も遠い場所で発見

国立天文台と東京大学などの研究グループは、地球から約百二十八億八千万光年離れた宇宙に銀河を発見した。これまで発見された銀河の中では最も遠い場所にある。誕生してから間もない幼少期の宇宙に、星の大集団である銀河がすでに存在していたことになり、宇宙が成長していった過程の解明につながるという。研究成果は十四日付の英科学誌「ネイチャー」に掲載される。

研究グループは米ハワイにある「すばる望遠鏡」を使って、春の星座「かみのけ座」の方向にある天体を探索し、銀河「IOK-1」を発見した。分析したところ、約百二十八億八千万光年離れた銀河であることが分かった。

国立天文台によると、これまでの最遠の銀河は約百二十八億二千五百万光年。今回はその記録を約六千万光年上回った。約百三十七億年前に誕生してから数億—十億年たった宇宙は、星や銀河が大量にできたと考えられているが、観測が難しいため、「宇宙史の暗黒時代」といわれてきた。今回の銀河は、光の速さから約百二十八億八千万年前の光を観測していることになり、暗黒時代に相当する。

すばる望遠鏡を使った最近数年間の観測で、暗黒時代のものとされる銀河が次々と見つかっており、宇宙の成長過程の謎を探る手がかりになると期待される。

タイトル獲得数
羽生2位タイに

王位防衛で通算64期
将棋の羽生善治王位
(王座・王将)に佐藤康